

競 技 注 意 事 項

1. 期日 令和7年1月18日(土)
 開門 8時30分(100mスタート後方のゲート)
 学校受付 8時40分～
 駅伝参加校打ち合わせ 9時00分(競技場ホームストレート中央付近)
2. スタート時刻 男子駅伝 11時30分 女子駅伝 10時00分
 男子5000m 14時00分 女子3000m 13時30分

3. 会場 江東区夢の島陸上競技場及び周回道路

4. 距離 男子駅伝

- 第1区 6.1km(トラックを1周してから競技場外へ、その後、周回コースを2周)
 第2区 2.8km(周回コースを1周)
 第3区 2.8km(周回コースを1周)
 第4区 5.6km(周回コースを2周)

女子駅伝

- 第1区 4.1km(周回コースを2周 女子1区のみ折り返し地点が⑥になります)
 第2区 2.8km(周回コースを1周)
 第3区 2.8km(周回コースを1周)

トラック

男子 5000m 女子 3000m

5. 受付 駅 伝：8時40分～8時55分(男女とも)

トラック：8時40分以降随時

6. タスキ 「タスキ」は長さ1m60cm～1m80cm、幅6cmを標準とし、各学校で作成したものを学校受付の際に提示し、確認を受けること。

7. 招集 駅伝競走に出場する競技者の招集は1区のみ 100mスタート付近スタンド下、2区以降は中継所付近で行い、下記の時刻までに終了する。招集後は中継所付近に待機し、呼び出しに即応できるようにすること。また、トラック競技に出場する競技者招集所は100mスタート付近スタンド下とする。

男子駅伝

区間	1区	2区	3区	4区
招集開始時刻	11:00	11:20	11:30	11:40
招集完了時刻	11:10	11:30	11:40	11:50
スタート予定時刻	11:30	11:50	12:00	12:10

女子駅伝

区間	1区	2区	3区
招集開始時刻	9:30	9:50	10:00
招集完了時刻	9:40	10:00	10:10
スタート予定時刻	10:00	10:20	10:30

トラック競技

	男子 5000m	女子 3000m
招集開始時刻	13 : 40	13 : 10
招集完了時刻	13 : 50	13 : 20

8. 競技規定

- (1) 本大会は2024年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則，同駅伝競走基準に準ずる。
- (2) 表彰は，支部毎に各校の代表チーム（Aチーム）を対象とし，総合順位1位から6位までの入賞チームと区間最高記録賞の競技者に対して賞状を授与する。なお，トラックレースの表彰は行わない。
- (3) 駅伝におけるチームは，男子は監督1名，選手4名，補欠2名，女子は監督1名，選手3名，補欠1名で編成し，選手のオーダー変更は大会当日の学校受付の際に顧問または監督が申し出ること。エントリーしたメンバーでの出場を原則とするが，補欠については柔軟に対応する。
- (4) 審判長が選手の走行が不可能と判断した時は，その競技を中断させることがある。
- (5) 駅伝において，途中の区間でのレース中のアクシデントによりタスキの継走ができなくなったチームは，その次の区間からそのチームを除く最終順位のチームと一緒に（同時）にスタートする。総合順位と途中棄権となった区間を除き，区間順位・区間記録は認められる。
- (6) 駅伝において，引継ぎには「タスキ」を用い，「タスキ」は，中継線より進行方向20mのところに引かれた白線との間で引き継がなければならない。渡された「タスキ」は肩から斜め脇の下に掛けなければならない。前走者が「タスキ」を外すのは中継線手前400mからとし，次走者が「タスキ」をかけるのは中継後200mまでとする。また，「タスキ」は必ず手渡さなければならない。
- (7) アスリートビブスは各校で作成し，胸，背部の両面につけること。
- (8) 抗議についてはTR8に従う。
- (9) 助力についてはTR6に従う。
- (10) 携帯電話，ビデオカメラ，音楽プレーヤー等は，競技場内に持ち込むことはできない。
- (11) 参加校は補助員に積極的に協力し，競技会の運営にご協力ください。
- (12) ゴミは競技場に残さないで，各自で必ず家に持ち帰ること。
- (13) 盗難には十分注意し，貴重品や自転車などの管理を各校，各自でしっかり行うこと。
- (14) 記録証が必要な場合は，表彰係で記録証発行申請書を受取り，必要事項を記入して表彰係に提出すること。
- (15) その他不明な点，忘れ物，落し物等は総務まで照会すること。

9. その他

- (1) 駅伝競走の競走路である夢の島陸上競技場周回道路は貸切占有ではない。一般の歩行者・自転車が利用し，通行するので十分に注意すること。
- (2) 競技中の選手の負傷については，応急処置のみ本部で行うが，その後の責任は負えないので安全に十分留意すること。